

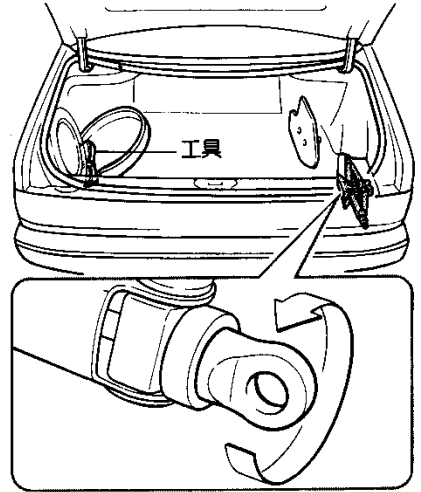
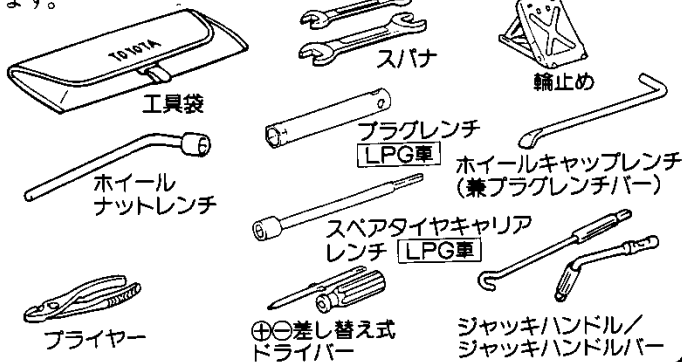
工具とジャッキ.....87
 パンクしたときは.....88
 万一のときの処置.....93
 こんな故障の応急処置は.....95

工具とジャッキ

それぞれの格納場所、工具の種類、ジャッキの使い方などを確かめておきましょう。

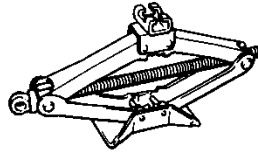
■工具

工具はスペアタイヤの横(LPG車はトランク右側)に格納されています。

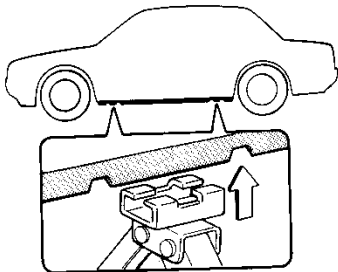


■ジャッキ

トランク右のカバーの下に格納されています。上図のように回すと取り出せます。

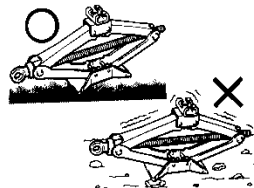


▶ジャッキをセットする位置

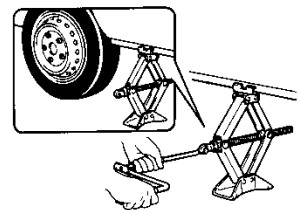


▶ジャッキのかけ方

1. ジャッキを地面の平らな固くて安定できるところにセットします。



4. ジャッキが確実にジャッキセット位置にかかっていることを確認し、ジャッキハンドルおよびジャッキハンドルバーを使用して、タイヤが地面から少し離れるまでジャッキアップします。



人や荷物を車からおろしてください。

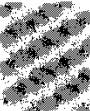
2. ジャッキを手で回して、ジャッキセット位置まで上げます。
3. ジャッキハンドルバーにジャッキハンドルの穴部を確実に差し込みます。




注意!

ジャッキアップしたら車の下には絶対もぐらないでください。万一、ジャッキがはずれると大変危険です。

万一のときの処置



パンクしたときは——①スペアタイヤ



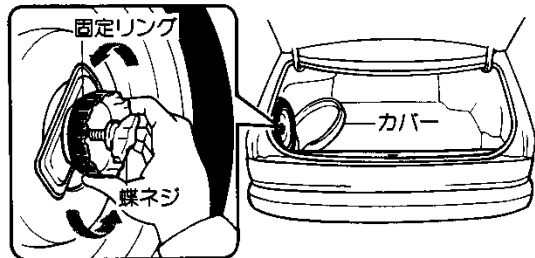
1.作業をするとき車体端部などでケガをしないように注意してください。
 2.パンクした場合に、エアゾール製品の補修剤を使用したときは、早めにパンク修理してください。

ちょっと一言

■格納場所

LPG車を除く

トランク左側に格納されています。




▶取り出し方

- 1.カバーをはずします。
- 2.固定リングを左に回して取り出します。

▶取りつけ方

タイヤを格納し、固定リングを右に回して固定します。



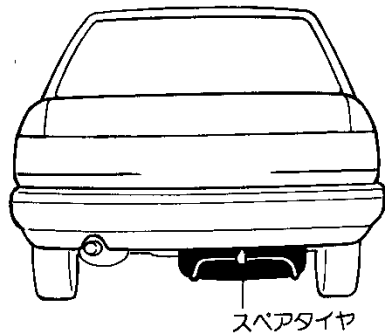
標準タイヤを取りつける場合は、あらかじめ蝶ネジを右に回してボルトをのぼしておいてください。

ちょっと一言

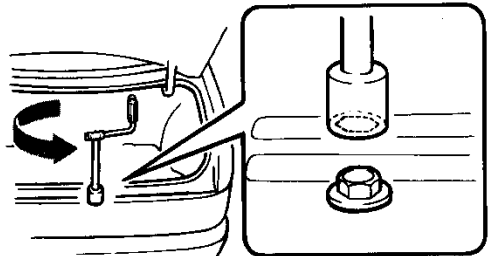
万一のときの処置

LPG車

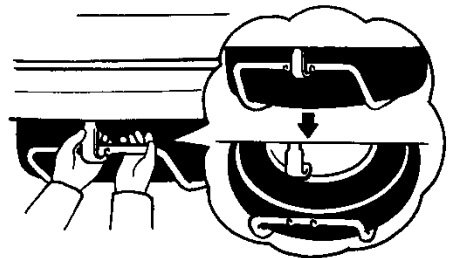
トランク下部に格納してあります。



- 1.スペアタイヤキャリアレンチでトランク内のボルトを十分ゆるめます。



- 2.スペアタイヤ格納具を少し持ち上げて、フックからはずします。



- 3.格納具を足の上などに落とさないように注意して、地面におろし、スペアタイヤを取り出します。
- 4.格納するときは逆の手順で行います。
 なお、トランク内のボルトは十分締めつけてください。

■ スペアタイヤ

● 応急用タイヤ

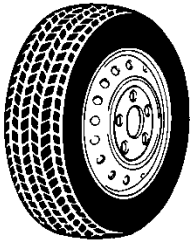
LG、GRサルーン、GR、GL、STD

● 標準タイヤ

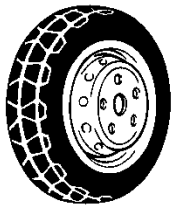
タクシーに標準装備

LG、GRサルーン、GR、GL、STDに注文装備

標準タイヤ



応急用タイヤ



※応急用タイヤは図のように標準タイヤと異なり専用タイヤです。

▶ 応急用タイヤ

タイヤがパンクしたとき、一時的に使用するタイヤです。



ちよつと一言

この応急用タイヤは標準タイヤより空気圧が高く、また直径がやや小さくできていますが走行上支障はありません。ご使用になる場合は、右の注意事項を必ずお守りください。



注意！

1. 応急用タイヤの空気圧はときどき点検してください。

空気圧：4.2kg/cm²(冷間時)

2. 応急用タイヤを装着した場合は、100km/h以下で走行し、できるだけ早く標準タイヤに交換してください。

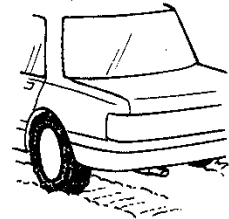


3. 雪道、凍結路では後輪に応急用タイヤを使用しないでください。(後輪がパンクした場合は、応急用タイヤを前輪に使用し、

はずした前輪を後輪につけてください。)



4. 応急用タイヤにタイヤチェーンを装着しないでください。後輪がパンクした場合は、応急用タイヤを前輪に使用し、はずした前輪を後輪につけてからタイヤチェーンを装着してください。



5. 応急用タイヤを装着した場合、タイヤの直径が小さいため、車高が少し低くなります。突起物などをのりこえるときは標準タイヤ装着時と同じ感覚で運転しないよう注意してください。

6. この応急用タイヤとホイールはお客様のお車専用用品です。他のタイヤやホイールと組みあわせたりお客様のお車以外の車に使用しないでください。

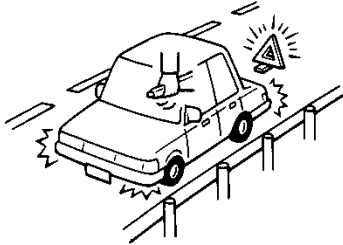


お客様の
お車専用

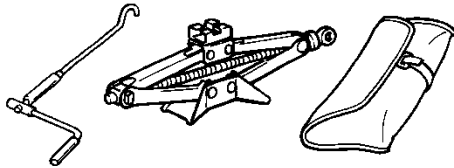
パンクしたときは——②タイヤ交換

■準備

1. 交通のじゃまにならず、安全に作業ができる平らな場所に車を止めます。
2. 非常点滅灯を点滅させ、人や荷物をおろし、停止表示板（または停止表示灯）を使用します。

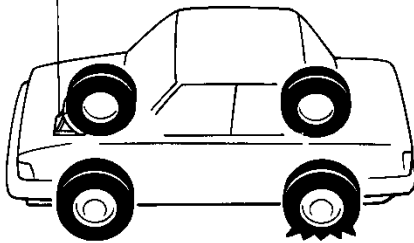


3. パーキング（駐車）ブレーキをかけます。
4. 工具やジャッキを取り出します。



5. パンクしたタイヤと対角の位置にあるタイヤに輪止め（搭載工具に含まれています）をします。

輪止め



万一のときの処置



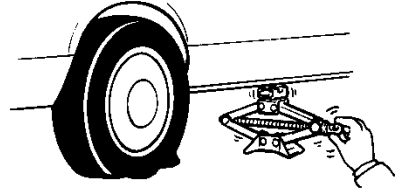
前輪がパンクしたときは後輪のうしろ側、
後輪がパンクしたときは前輪の前側に輪止めをしてください。

ちよつと一言

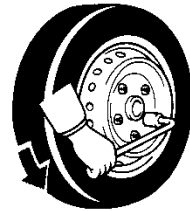
6. スペアタイヤを取り出します。☞88ページの「パンクしたときは——①スペアタイヤ」を参照してください。
7. ホイールキャップをはずします。☞92ページの「ホイールキャップの取りはずし方」を参照してください。

■ジャッキアップ

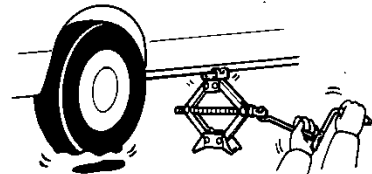
1. ジャッキをセットします。☞87ページの「ジャッキ」を参照してください。



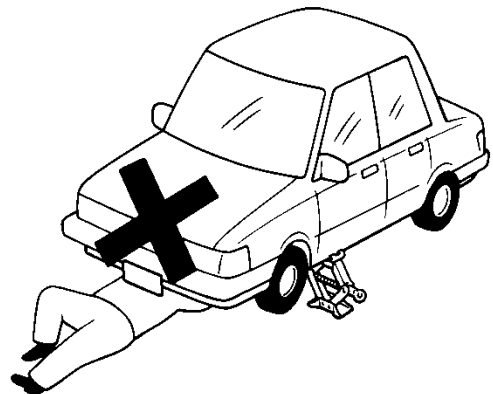
2. ホイールナットレンチでナットを左に回し、手で回るくらいまでゆるめます。



3. 車を、タイヤと地面が少し離れるまでジャッキアップします。

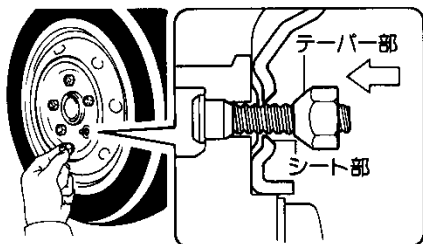


ジャッキアップしたら車の下には絶対もぐらないでください。万一、ジャッキがはずれると大変危険です。

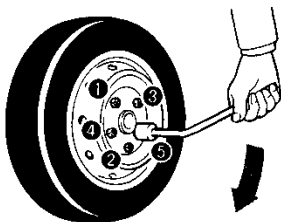


■タイヤ交換

1. ナットをはずし、タイヤを取り替えます。
2. ナットのテーパ部がホイール穴のシート部に軽く当たり、タイヤがガタつかない程度までナットを右に回して仮締めします。



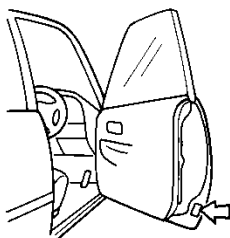
3. ジャッキを下げ、図の順序で2～3度にわたり、レンチを使用して手で十分締めつけます。



注意!

レンチを足で踏んだり、パイプなどを使用して必要以上に締めつけないでください。

4. ホイールキャップ付き車は、タイヤのバルブ(空気口)にホイールキャップの穴をあわせて取り付けます。
5. 取りつけたタイヤの空気圧を確認します。(図に示す運転席ドアに貼られている「タイヤ空気圧」の表を参照してください。)



ちよつと言

「タイヤ空気圧」表の中に示されているタイヤサイズは車種またはグレードにより装着できないものもあります。詳しくはトヨタ販売店にご相談ください。



注意!

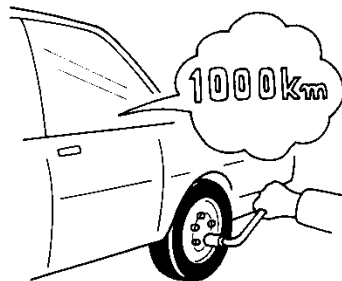
1. 空気圧が不足している場合や調整ができないときは、ひかめな速度で走行してください。
2. 空気圧が低いまま走行を続けると、高速走行時にタイヤが疲労しバースト(破裂)するおそれがあります。チューブレスタイヤの場合は、タイヤとリムの密着が悪くなり、空気が漏れやすくなります。

6. 工具、ジャッキ、タイヤを片づけます。
タイヤを格納するときは、確実に固定してください。



ちよつと言

1. 応急用タイヤは標準タイヤがパンクしたときに一時的に使用するタイヤです。パンクしたタイヤは、ただちに修理して、応急用タイヤとつけ替えてください。
2. タイヤを脱着したときは、タイヤを取りつけて、1,000km走行後、再度ホイールナットを締めつけてゆるみがないことを点検してください。




注意!

1. タイヤ交換後、走行中ハンドルや車体に振動が出た場合はタイヤのバランスの点検をトヨタ販売店で受けてください。
2. タイヤを新品と交換する場合は、トヨタ販売店で相談してください。異なった種類のタイヤを混ぜて使用したり、指定サイズ以外のタイヤを使用することは、車の安全走行に悪影響をおよぼしますので、絶対に避けてください。
3. スペアタイヤの空気圧の点検は、日頃から怠らないようにしてください。

■ホイールの取り扱い方

▶ホイールキャップの取りはずし方

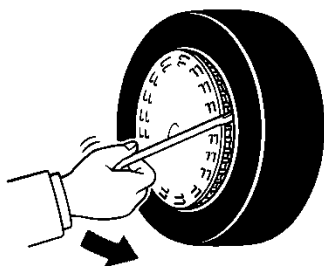


1. 直接手をかけて取ると指にケガをすることがあります。
2. ホイールキャップレンチ以外は使わないでください。

ちよつと言

■スチールホイール装着車

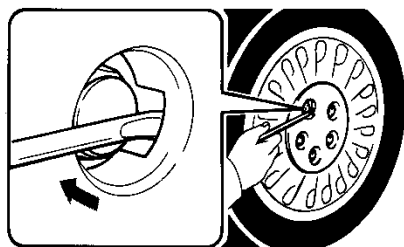
1. ホイールキャップレンチの先端を差し込み、ホイールとキャップの間にホイールキャップレンチが十分はいるまでタイヤ側にこじってください。



2. ホイールキャップレンチを差し込み、タイヤ側に強くこじるとはずれます。(2~3カ所、場所をかえて繰り返すと楽にはずせます。)

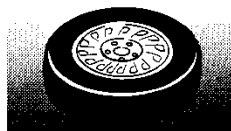
■アルミホイール装着車

ホイールキャップレンチの柄の先をセンターキャップの切り欠きに差し込み、ホイールナットの頭部を支点にして、タイヤ側にこじると楽にはずれます。

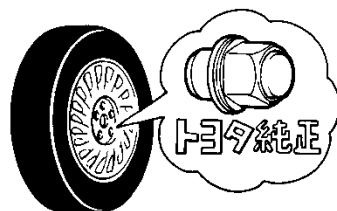


▶アルミホイールの取り扱い方

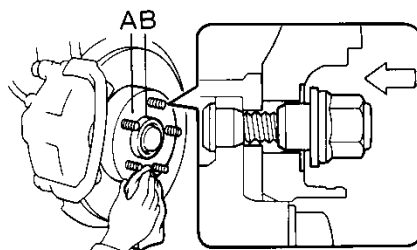
1. 取りはずしたホイールを直接地面に置くときは意匠面を上にして置いてください。



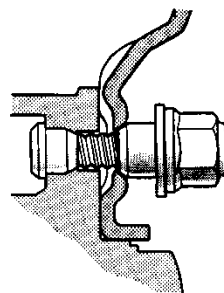
2. バランスウェイトおよびナットはトヨタ純正のアルミホイール専用部品をお使いください。



3. 傷、変形のあるアルミホイールは再使用しないでください。
4. アルミホイールを再び車両に取りつけるとき、図のA、BのよごれをきれいにふいてからBの部分を実際にはめ、ホイールナットが取り付け穴の中心にくるようにして、ホイールナットの座金がホイールに当たるまで手で締めてください。さらに、レンチを使用して手で十分締めつけます。



5. ホイールナットを締めすぎないように注意してください。
6. タイヤチェーンを装着すると、ホイールに傷をつけるおそれがあります。
7. 応急用タイヤまたはスチールホイールを取りつける場合、ホイールナットは下図のように取りつけてください。



万一のときの処置

万一のときの処置

故障したら……

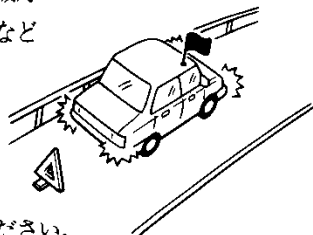
1. 車を路肩に寄せ非常点滅灯

を点滅させるか、赤旗などを表示します。

2. 高速道路や自動車専用

道路では、車両後方に停止表示板（または停止表示灯）を置いてください。

法律で義務づけられています。



非常電話を利用する場合などは、安全な場所を歩くよう心がけてください。

▶ 夜間、休日の修理連絡先

「整備手帳」巻末のトヨタサービス網をご覧ください。



走行中、エンジンが停止したときは……

運転操作に変化が生じますので、次の方法で車を安全な場所に停止してください。

1. ブレーキブースター（ブレーキ倍力装置）が作用しなくなりますので、ブレーキペダルを強く踏んでください。

2. パワーステアリング（ハンドル操作力軽減装置）が働かなくなりますので、ハンドル操作が重くなります。ハンドルを強く操作してください。

走行中、車体床下に

強い衝撃を受けたときは……

ただちに車を止め、ブレーキ液の漏れや損傷を確認してください。損傷がひどい場合はトヨタ販売店で点検を受けてください。



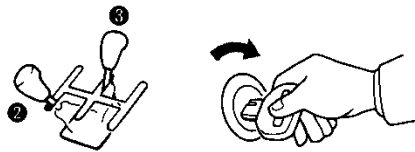
エンストして始動できなくなったときは……

1. 付近に人がいる場合は安全な場所まで押しもらってください。



2. マニュアルトランスミッション車はチェンジレバーの位置をセカンドまたはサードにいれ、クラッチを踏まずにエンジンスイッチをSTARTの位置で保持すれば、車を動かすことができます。

また、平坦路の場合はトップにすると早く抜け出せます。



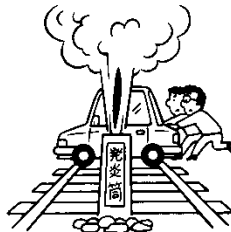
万一のときの処置

オートマチックトランスミッション車はエンジンスイッチで車を動かすことができません。



踏切内で動けなくなったときは……

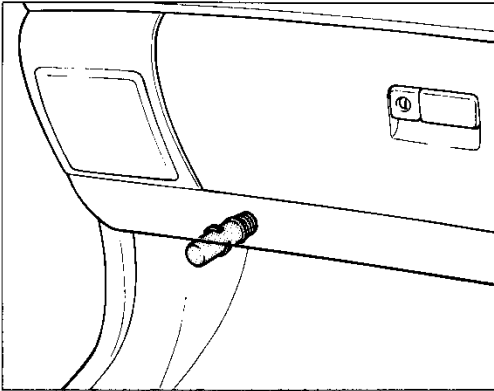
脱輪などですぐ動かせない場合は、ただちに踏切の非常ボタンを押してください。



電車が来そうになったり、緊急を要する場合は発炎筒で合図してください。▶次ページ参照。

発炎筒

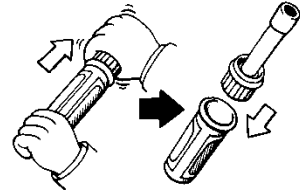
高速道路や踏切内などで、緊急を要するときに使用します。



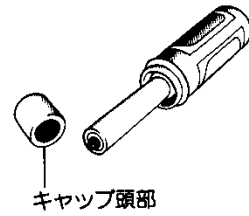
1. グローブボックス左下部に備えつけてあります。
2. 発炎時間は約5分間です。
3. 本体に表示してある有効期間のきれる前にトヨタ販売店でトヨタ純正ハイフレヤー(発炎筒)をお求めください。

▶ 使い方

1. 本体をひねりながら取り出し、逆にして差し込みます。



2. キャップ頭部のすり薬でこすると着火します。



1. お子さまにさわらせないでください。

注意!



2. 非常用信号としてのみご使用ください。
3. 使用中は筒先を顔や体に向けたり、近づけたりしないでください。やけどの危険があります。
4. 発炎時間は約5分ですので、非常点滅灯を併用するようにしてください。
5. ガソリンなど可燃物の近くでは火災をまねくおそれがありますので使用をさけてください。

こんな故障の応急処置は……

バッテリーあがりの処置は……

ブースターケーブル(別売)があれば、他車のバッテリーを電源としてエンジンを始動することができます。

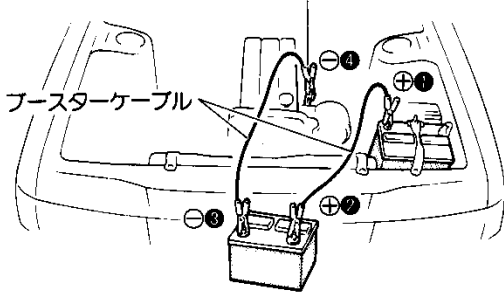


救援車は必ず12Vのバッテリーがついている車を使用してください。

1. ブースターケーブルを図の番号の順序に接続します。

⊕⊖を間違えないようご注意ください。

自車(バッテリーあがり車)
エンジン本体へ(フックなど)



他車(救援車)



1. ①の接続は必ず自車(バッテリーあがり車)の⊕端子にしてください。
2. ④の接続はバッテリーから離れたエンジン本体にしてください。バッテリーとバッテリーを直接接続すると、バッテリーから発生する可燃性ガスに引火して爆発するおそれがあります。

2. 接続後、救援車のエンジン回転を少し高めにしておきます。

3. 始動のしかたは41ページの「エンジンのかけ方」を参照してください。

4. 自車のエンジンが始動したら、取りつけたときと逆の順序でブースターケーブルを取りはずします。バッテリーはすぐにガソリンスタンドやトヨタ販売店で完全充電してください。

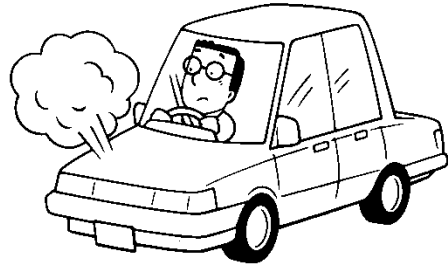


注意!

1. 絶対に押しがけによる始動はやめてください。
2. ケーブル接続の際には、⊕と⊖端子を絶対に接触させないでください。
3. ケーブルが冷却ファンやベルトに巻き込まれないように接続には十分注意してください。

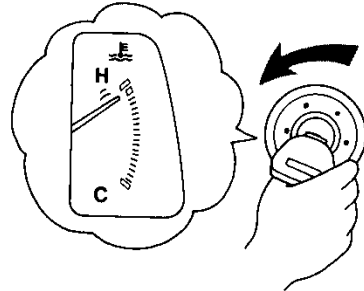
オーバーヒートの処置は……

1. 安全な場所へ車を止めてください。



2. エンジンをかけたまま、ボンネットを開け、風通しをよくします。

3. 水温計の指針が下がってきたら、エンジンを止めます。



4. エンジンが十分に冷えてから、冷却水の有無、ラジエーターのコア部(放熱部)の著しいよごれ、ごみの付着の有無、Vベルトのゆるみを点検します。詳しくは整備手帳をご覧ください。



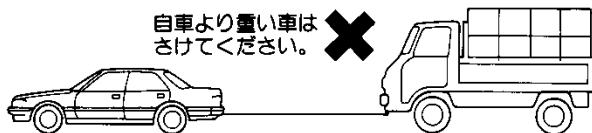
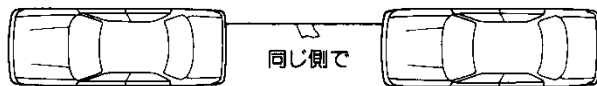
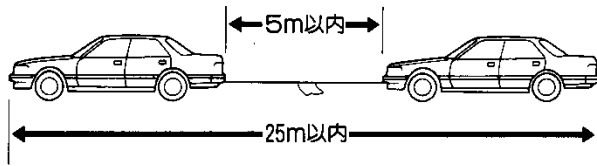
注意!

1. エンジンが熱いときは、ラジエーターや補助タンクのキャップをはずさないでください。蒸気や熱湯が吹き出して思わぬやけどをすることがあります。キャップを開けるときは、エンジンが十分に冷えてから布などでキャップを包みゆっくりと開けてください。
2. 冷却水は、エンジンが十分に冷えてからゆっくりといれてください。エンジンが熱いときに急に冷たい冷却水をいれるとエンジンを損傷するおそれがあります。

万一のときの処置

けん引するときは……

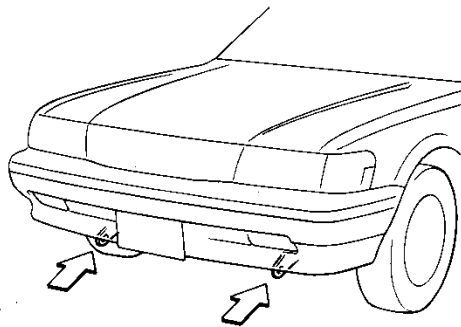
けん引は、下図の方法を守ってください。



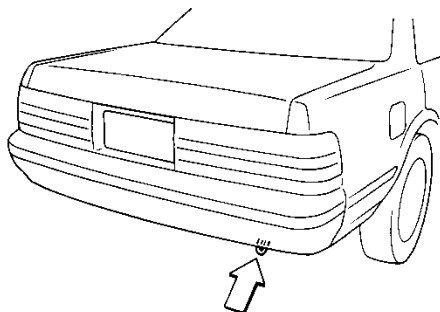
※けん引される車はけん引車の制動灯に注意して、常にロープをたるませないように気をつけてください。また、けん引ロープには0.3メートル平方(0.3m×0.3m)以上の白い布を必ずつけてください。

■ロープをかける位置

▶フロント側



▶リヤ側



注意!

- 1.けん引される車は、下記事項を厳守してください。
 - チェンジレバーを①の位置にする。
 - エンジンスイッチをACCまたはONにする。
 - けん引される速度は30km/h以下(オートマチックトランスミッション車のみ)
 - けん引される距離は80km以内(オートマチックトランスミッション車のみ)
- 2.エンジンが停止していると、いつもよりブレーキの効が悪くなります。また、ハンドル操作が非常に重くなります。できる限りエンジンを始動してけん引してください。
- 3.長坂路を下るときはブレーキが過熱して効かなくなるおそれがあります。レッカー車にけん引してもらってください。
- 4.フロントけん引フックを使用されるときはロープでボデーに傷をつけないようにしてください。
- 5.次の場合は、トヨタ販売店にご連絡ください。
 - エンジンが回っているのに車が動かない。または異常な音がする。
 - オートマチックトランスミッションフルードがない。

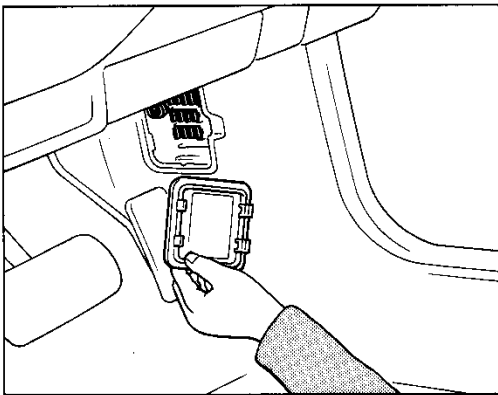
ヒューズが切れたときは……

各種のランプがつかないときや、電気系統の装置が働かないときは、ヒューズが切れているか、サーキットブレーカーが電流をしゃ断している場合があります。ヒューズボックスの位置、ヒューズの受け持つ装置を知って自分で処置できるようにしておく便利です。

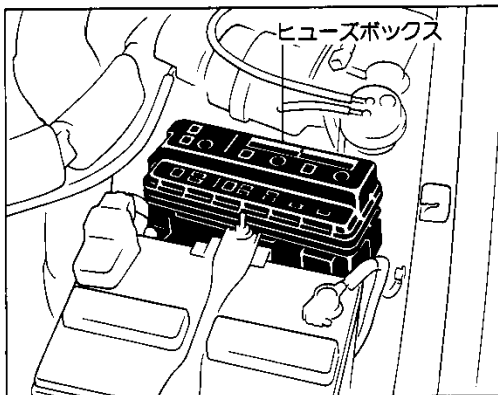
■ヒューズボックスの位置

ヒューズボックスは、運転席足元とエンジンルーム内にあります。

▶運転席足元ヒューズボックス



▶エンジンルーム内ヒューズボックス



ヒューズの受け持っている装置は99ページを参照してください。



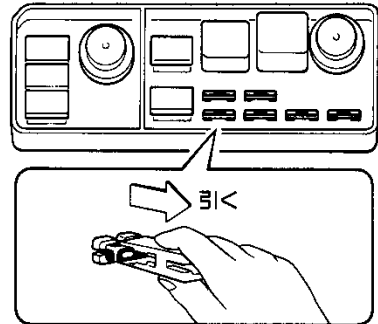
ちょっと一言

ヒーター、エアコンが作動しないときはトヨタ販売店へご連絡ください。

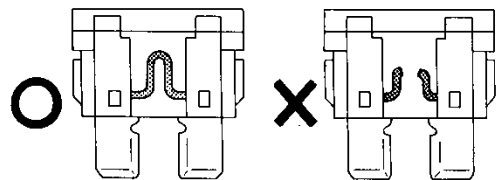
■ヒューズの交換

各ヒューズの受け持っている装置が作動しないときは、ヒューズ切れが考えられます。そのときは次のように処置してください。

1. エンジンスイッチをLOCKの位置にします。
2. ヒューズにヒューズはずしを差し込んで引き抜きます。(ヒューズはずしは、エンジンルーム内ヒューズボックスカバーの裏側についています。)



3. ヒューズが下図の右側のようにであれば、ヒューズ切れです。予備ヒューズと交換してください。

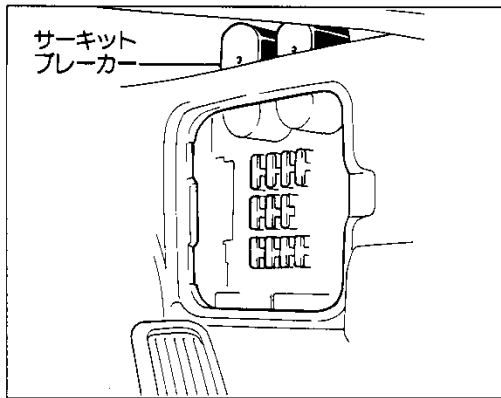


注意!

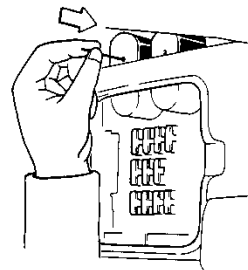
1. 取りつけてあるヒューズと同じ容量のヒューズを使用してください。針金、銀紙などを使用すると電線の過熱損傷の原因になります。
2. 取り替えてもまたヒューズが切れる場合はトヨタ販売店で点検を受けてください。

■サーキットブレーカー


サーキットブレーカーは、装置を保護するため、電流が流れすぎたとき、電流をしゃ断する装置です。



▶リヤウインドウデフォグガー（曇り取り）、パワーウインドウが作動しないときは、サーキットブレーカーの回路がしゃ断されている場合があります。



1. エンジンスイッチをLOCKの位置にします。
2. サーキットブレーカーの穴に細い棒をカチッという音がする位置まで、軽く差し込みます。
3. これでサーキットブレーカーの回路が復帰します。

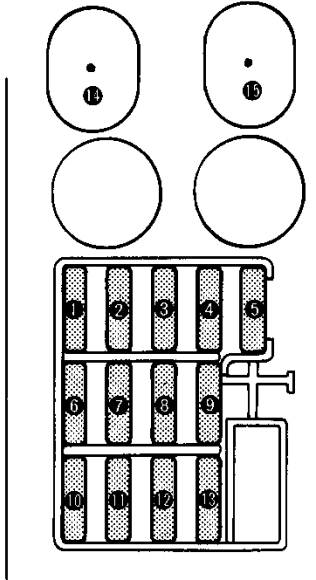


ちよつと一言

1. マッチ棒など折れやすい物は使用しないでください。
2. 以上の操作をしても、装備品が作動しないときや、サーキットブレーカーの回路が再び切れる場合は、すぐにトヨタ販売店で点検を受けてください。

ヒューズとサーキットブレーカーの受け持つ装置

■運転席足元ヒューズボックス



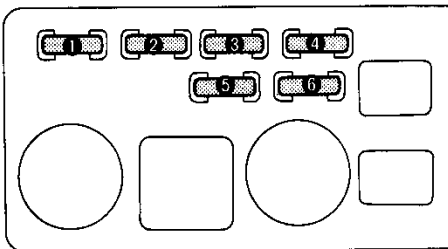
<ヒューズ>

①	ラジオ	7.5A	ラジオ、電動リモコンミラー
②	イグニッション	7.5A	EFI、充電警告灯
③	エレクトロニクス+B	15A	—————
④	ストップランプ	15A	制動灯
⑤	テールランプ	15A	車幅灯、尾灯、番号灯、グローブボックスランプ、シガレットライター照明、ラジオ照明、計器照明、ヒーターコントロール照明、スイッチ照明、チェンジレバー位置表示照明
⑥	ライター	15A	シガレットライター、時計
⑦	スタータ	7.5A	EFI
⑧	エレクトロニクスIG	15A	—————
⑨	フォグランプ	15A	フォグランプ
⑩	エンジン	15A	オルタネーター
⑪	ワイパー	20A	ワイパー
⑫	ターン	10A	方向指示灯表示灯
⑬	メーター	7.5A	メーター、パワーウィンドウ、ヒーター、後退灯、リヤウィンドウデフォグ

<サーキットブレーカー>

⑭	パワーウィンドウ
⑮	リヤウィンドウデフォグ(曇り取り)

■エンジンルーム内ヒューズボックス



<ヒューズ>

①	EFI	20A	エンジンコントロールコンピュータ
②	ルームランプ	20A	オーディオ、室内灯、時計、半ドア警告灯、トランク灯、パーソナルランプ、エンジンキー照明
③	テレフォン	15A	—————
④	ハザード・ホーン	15A	警音器、非常点滅灯
⑤	ヘッドランプ(左)	15A	ヘッドランプ(左側)
⑥	ヘッドランプ(右)	15A	ヘッドランプ(右側)



予備ヒューズはヒューズボックスのカバーに取りつけられています。

ヒューズ、サーキットブレーカーは車の仕様によりない場合があります。

万一のときの処置

ランプ類が点灯しないときは……



ちょっと一言

1. ランプ類が点灯しないときは、ヒューズ切れの他、ランプ自体の球切れが考えられます。

電球の交換は、右の各規格にあわせて、同容量のものにしてください。

2. ハロゲンランプ（ヨウ素入り電球）は使用時電球が高温になるため、表面に油などが付着すると寿命が短くなります。

電球交換時に、手などがガラスに触れないように注意してください。

3. ランプ類はすべて12V用をご使用ください。

■フロント側電球

▶ヘッドランプ

ハロゲン ……………60/55W

▶フォグランプ

ハロゲン……………55W

▶コーナリングランプ……………35W

STD、タクシーを除く

▶車幅灯……………5W

▶フロント方向指示灯（兼非常点滅灯） ……21W

▶サイド方向指示灯（兼非常点滅灯）……………5W

■リヤ側電球

▶方向指示灯（兼非常点滅灯） ……………21W

▶制動灯／尾灯 ……………21/5W

▶後退灯……………21W

▶番号灯……………5W

■室内電球

▶室内灯……………10W

▶パーソナルランプ……………10W

▶トランク灯 ……………3.8W

▶グローブボックスランプ ……………1.4W